
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2010年11月～12月）

気象庁



図 1. 2010年11月～12月に目立った活動があった火山

雌阿寒岳（ $43^{\circ}23'12''\text{N}$ ， $144^{\circ}00'32''\text{E}$ ）

12月17日12時台から21時台にかけて振幅の小さな火山性微動が4回発生した。最大は21時14分頃に発生した微動で最大振幅は $0.27\ \mu\text{m}$ （継続時間150秒）であった。

火山性微動の発生に伴い、噴煙の状況、空振計や傾斜計のデータに特段の変化はなかった。

雌阿寒岳で火山性微動が発生したのは2009年3月18日以来である。

火山性微動の発生後、12月19日にかけて振幅の小さな火山性地震がやや増加したが、それ以外は地震活動は概ね低調で、噴煙活動や地殻変動に特段の変化はなかった。

浅間山（ $36^{\circ}24'23''\text{N}$ ， $138^{\circ}31'23''\text{E}$ ）

山頂火口からの噴煙量に大きな変化はなく、噴煙高度は火口縁上100～400mで経過した。

火山性地震はやや少ない状態で経過したが、11月11日～12日及び12月28日～31日にやや増加した。火山

性微動は観測されなかった。

11月2日に陸上自衛隊の協力で上空からの観測を実施した。前回の観測（2010年4月13日）と比較して、高温領域の分布に大きな変化はみられなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中2回実施）では、一日あたり200トンとやや少ない状態であった。

山体周辺のGPS連続観測では、2008年7月初め頃から2009年夏にかけて深部へのマグマの注入を示す伸びがみられ、その後2009年秋頃からわずかに縮みの傾向がみられている。

伊豆大島（ $34^{\circ}43'29''\text{N}$ ， $139^{\circ}23'41''\text{E}$ ）

12月22日に島の西方沖を震源とする振幅の小さな地震が一時的に増加した。火山性地震の発生回数は、2010年7月から、それ以前と比べて多い状態が継続していたが、12月22日を除いた今期間はやや少ない状態で経過した。

GPS及び体積歪計による観測では、2010年5月下旬から伸びの傾向がみられたが、9月頃から体積歪計の伸びの傾向に鈍化の傾向がみられる。

また、GPSによる連続観測では、地下深部へのマグマ注入によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が継続している。

11月18日及び12月16日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺に引き続き弱い噴気が認められた。三原山山頂火口内の中央火口の温度や地表面温度分布は前回（2010年10月27日）の観測と比べて特段の変化はなかった。

三宅島（ $34^{\circ}05'37''\text{N}$ ， $139^{\circ}31'34''\text{E}$ ）

噴煙高度は火口縁上概ね100～400mで経過した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中3回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり600～800トンと、やや多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いている。11月11日23時03分頃、11月25日11時27分頃、及び11時39分頃、継続時間の短い（いずれも100秒未満）振幅のやや大きな火山性微動が発生した。火山性微動発生時の噴煙の状況に変化はなかった。

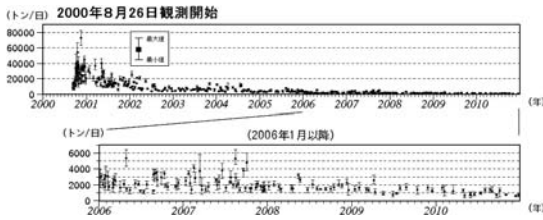


図 2. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月26日～2010年12月31日）

また、火山性微動の発生に伴い空振は観測されなかった。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

GPS 連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島（24°45′03″N, 141°17′20″E（摺鉢山））

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、島全体の隆起を示す地殻変動が2006年8月に始まり、2009年10月頃からは停滞していたが、2010年5月頃から再び現れ、11月中旬頃から鈍化している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

福徳岡ノ場（24°17.1′N, 141°28.9′E）

12月18日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、複数の湧出点付近から、青白色、緑色の変色水が幅約280m、長さ約1,800mの帯状に南方に延びているのが確認された。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山（新燃岳）（31°54′34″N, 131°53′11″E（新燃岳））

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続く、振幅が小さく、継続時間の短い火山性微動が時々観測されるなど、火山活動のやや高まった状態が続いている。

噴煙活動は低調で、白色の噴煙が火口縁上概ね100mで経過した。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

桜島（31°34′38″N, 130°39′32″E（南岳））

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が11月下旬頃からやや増加し、12月上旬までやや多い状態で経過し活発な状態であった。

11月は噴火が59回（そのうち爆発的噴火は50回）、12月は噴火が62回（そのうち爆発的噴火は52回）発生した。これらの噴火に伴い、最も速くまで飛散した大きな噴石は4合目（昭和火口から800m～1,300m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

12月14日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、南岳山頂火口のB火口でごく弱い白色の噴気を観測し、火口底では灰色の水が溜まっていた。南岳山頂火口、昭和火口の火口周辺の状況に特段の変化はなかった。B火口付近の熱の分布域に特段の変化はなかった。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中5回実施）では、二酸化硫黄放出量は、11月1, 12, 16, 26日は一日あたり1,100トン～1,900トンとやや多い状態で、12月24日は一日あたり2,600トンと多い状態であった。

GPS 連続観測では、2010年初めころからみられた桜島島内の伸びの傾向は、6月頃から鈍化または収縮に転じている。有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2010年7月頃からみられた山体の沈降傾向は11月下旬以降停滞している。12月上旬には一時的に桜島直下へのマグマの供給量の増加によると考えられるわずかな変化が認められた。また、国土地理院によるGPS 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による長期的な伸びの傾向がみられていたが、7月頃から鈍化している。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、10月は8万トン、11月は18万トンであった。また、2010年の1月から11月までの総降灰量は約512万トンで、2009年の1年間の降灰量（約235万トン）を上回っている。

薩摩硫黄島（30°47′35″N, 130°18′19″E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。

12月14日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、2009年12月22日の観測と比べて、火口周辺の高温度域に特段の変化はなかった。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳^{おたけ}火山口では爆発的噴火が 11 月に 94 回, 12 月に 17 回発生し, 噴火活動は活発に経過した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

12 月 14 日に海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では, 御岳火山口の中央部に赤熱した高温域が認められたほか, 外壁下部にも高温域が認められた。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責: 気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

○人事公募

【東京大学大気海洋研究所】

平成 22 年度東京大学大気海洋研究所共同利用研究

「日本列島周辺域に分布するテフラのデータベース整備にむけて」

日本第四紀学会 テフラ・火山研究委員会は, 上記の研究集会を開催いたします。

火山国である日本周辺には, 爆発的噴火の産物であるテフラが多数分布します。過去に噴出し堆積物中に保存されているテフラは, 第四紀編年, 古環境復元, 地形変化史, 火山噴火史, 考古編年など様々な分野で指標として用いられています。日本のテフラの研究史は長く, 日本列島における上記研究分野の特徴となっています。ところで, 各種地球科学分野のデータベースが急激に整備されつつあるにもかかわらず, テフラ研究分野では紙媒体で研究が進められているのが現状です。一方で, 個人研究レベルで, テフラのデータベース化が試みられている場合もあります。本研究集会では, テフラのデータベース化に関する情報交換を行い, 本格的なテフラのデータベース整備を模索します。ふるってご参加下さい。

日 時: 2011 年 1 月 11 日 (火)~12 日 (水)

場 所: 東京大学柏キャンパス大気海洋研究所講堂

アクセス: <http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/about/j/map.html>

プログラム: 次の URL から閲覧できます。

http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/news/j/index.cgi?mode=art_view&id=321&lang=ja

参加費無料, 事前登録は必要ありません。直接会場において下さい。

初日の夕方, 懇親会(大気海洋研究所内)開催を予定

しています。

懇親会参加費: 4000~5000 円 (一般)

2000 円程度 (院生・学生)

※懇親会参加希望者は, 1 月 5 日までに, suzukit@tmu.ac.jp までその旨お知らせ下さい。当日空きがありましたら当日受付も致しますが, 事前のご連絡をお願いします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 9 日送信しました)

【東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設】

公募職種: 特任研究員 (短時間勤務有期雇用職員)

勤 務 地: 東京都文京区本郷 7-3-1

着 任 日: 平成 23 年 4 月 1 日

契約期間: 単年契約, 最長 2 年

研究内容: 地球化学・地球惑星物質科学に関連した分野
採用人数: 1 名

資格条件: 着任時に博士の学位を有し, 施設教員と協力して先端的な研究を行える方

就業日及び就業時間: 週 20 時間 (週 5 日勤務)

休 日: 土・日曜日, 祝日, 年末年始 (12/29~1/3)

給 与: 時間給 (3500 円程度。実績経験を考慮して決定)

通勤手当: 支給要件を満たしている場合は, 実費相当額を支給 (支給限度額月額 55,000 円)

社会保険等: 社会保険は該当なし, 雇用保険に加入

提出書類: (1) 本学所定の履歴書 (写真貼付)

(2) 研究業績リスト (原著論文・総説 (査読の有無を明記), 学会発表)

(3) 主要論文 3 編以内の別刷り (コピー可)

(4) これまでの研究概要 (A4 用紙 1 枚, 1000 字程度)

(5) 着任した場合の研究計画 (A4 用紙 1 枚, 1000 字程度)

(6) 意見を伺える方 2 名の氏名, 連絡先

書類提出: 下記宛先に, 「特任教員応募書類在中」と朱書して簡易書留等で送付してください。受領後, 受領書をお送りします。

提出書類は選考のみに使用し, 選考終了後は責任をもって処分します。

※本学所定の履歴書は, 下記 URL からダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html

公募締切: 平成 23 年 1 月 31 日 (月) 必着

選考方法: 書類選考の後, 面接日を連絡します。

書類提出および問合せ先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設
長尾敬介

電子メール nagao@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

地殻化学実験施設ホームページ

<http://www.eqchem.s.u-tokyo.ac.jp>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月16日送信しました)

【産業技術総合研究所地質情報研究部門】

公募職種：産総研特別研究員

勤務地：独立行政法人産業技術総合研究所内 地質情報研究部門 (つくば市)

雇用期間：平成23年4月1日～24年3月31日(平成26年3月31日までに限り、雇用契約時における更新基準を満たした場合には更新の可能性あり)

研究内容：火山灰など火山噴出物試料の組織、化学組成分析に基づく噴火過程の解析を行い、火山活動評価手法の開発研究を行う。

(研究ミッションに関しては<http://unit.aist.go.jp/igg/jp/index.html>を参照のこと)

採用人数：1名

資格条件：火山岩の組織・化学組成分析に基づく研究経験と実績があり、火山活動推移評価の研究に積極的に取り組めること。採用時において博士号取得後7年以内であること。

勤務時間：週5日、1日7時間45分(8:30～17:15)
(休憩1時間)フレックスタイム制可

休日：土・日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

給与：時給制 2,200円・2,350円・2,500円(業務内容により俸給ガイドラインから決定)

待遇：有給休暇有り、通勤手当有り、社会保険完備
提出書類：履歴書(写真貼付)、これまでの研究概要、業績リスト(紙上発表、口頭発表、知的財産権、その他)博士課程学位授与証明書(又は見込み)写)

応募方法：提出書類を応募先までご郵送ください。
必ず応募封筒及び履歴書の左上に整理番号(地質情報1-002)を明記してください。

公募締切：平成23年2月4日(金)必着

選考方法：書類選考および面接試験

採用内定通知(雇用契約書の提示)：平成23年2月下旬
書類提出先：〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7
独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研

究部門 事務室 採用事務担当者宛 TEL：029-861-3620

問合せ先：篠原宏志、e-mail：shinohara-h@aist.go.jp

公募情報 URL：<http://unit.aist.go.jp/igg/ci/recruit/index.html>, <http://unit.aist.go.jp/igg/ci/recruit/info/h23bumon1002.pdf>

上記の公募に加え、分野を限定しない特別研究員の公募も行っております。上記URLの案内をご参照ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月11日送信しました)

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

募集人員：2名

研究分野：本施設の研究者と協力して、施設が行っている研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。

現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等(<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>)を参照のこと。

なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。

適任者が見出せない場合は、施設長(takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)と相談すること。

応募資格：着任の時点で、博士学位を有すること。

勤務地：地球熱学研究施設(大分県別府市)又は火山研究センター(熊本県阿蘇郡)

着任時期：平成23年4月1日以降の出来る限り早い時期。

採用予定期間：原則として採用日より2年間(3年まで更新可)

待遇等：(1)身分;研究員(研究機関)

(2)給与 月額約30万円

(3)週19時間勤務、交通費支給、有給休暇あり

応募期限：平成23年2月11日(金)

応募書類：1.履歴書 氏名、生年月日、住所、連絡先(電話およびe-mailも記載)学歴 高校入学以降の入学年月日、卒業年月日 職歴 資格 賞罰 学会賞など

2.業績目録 査読論文、査読なし論文、学会発表など(博士号(題目、取得大学、時期も記載))

3.研究の概要および今後の研究の抱負(各A4,1枚程度)

4.主要論文3編以内 応募方法：上記書類を

PDF ファイル 3 (1, 2, 3 は同一ファイル)
で下記応募先に送付すること。

e-mail takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp

問い合わせ先：〒874-0903 大分県別府市野口原
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設
竹村恵二 電話 0977-22-0713 (別府)
075-753-3938 (京都分室)

e-mail takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp

なお、本研究員(研究機関)ポストは、「* 現在、本研究員ポストについて検討中で、システムが変更になる可能性があり、京都大学からの平成 23 年度非常勤研究員経費が来なくなる場合もある。」の文章を付記させていただきます。
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 25 日送信しました)

【産業技術総合研究所地質情報研究部門】

募集人員：研究職員各 1 名

<公募番号>地質情報-1

公募課題名：重要地域(陸域)の地質調査及び地質図作成
配属予定ユニット：地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

概要：白亜紀一新第三紀火山岩分布地域の地質図を作成する。

野外地質調査を基礎とした火山地質、これに関連した地質構造とその形成過程の研究に意欲的に取り組む研究者を広く募集する。

<公募番号>地質情報-5

公募課題名：火山岩の年代測定技術の開発
配属予定ユニット：地質情報研究部門 火山活動研究グループ

概要：火山岩の放射年代測定手法に関する開発および高度化を行なうとともに、新たな手法に基づく時代未詳岩石や火山発達史解明のための年代測定を行なう研究者を募集する。質量分析法に関する専門知識や経験を有することが望ましい。

以下、共通

採用制度：若手型任期付研究職員

採用予定時期：平成 24 年 4 月 1 日

任期：5 年(平成 29 年 3 月 31 日まで)

任期終了の概ね 2 年前にパーマネント化審査あり

勤務地：つくばセンター

応募資格：採用予定日において博士の学位を有し(応募時点における見込を含む)、平成 16 年 4 月 2

日以降に博士の学位を取得した者であること。
応募書類：書式指定がありますのでご注意ください。また、応募に当たっては Web 上での事前登録が必要です。

- ・履歴書
- ・研究業績リスト
- ・修士論文要約
- ・博士論文要約
- ・研究業績(2~3点)
- ・研究業績の要約
- ・これまでの研究概要と今後の抱負
- ・推薦状

応募締め切り：1 次締切平成 23 年 2 月 28 日；最終締切
平成 23 年 3 月 15 日

書類の送付先

〒305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-1

つくば中央第 2 事業所 つくば本部・情報棟 7F

独立行政法人産業技術総合研究所

研究職員採用委員会事務局

封筒に朱書きで「公募選考採用応募書類在中」及び「公募番号(各研究分野の募集概要に記載されている番号)」を必ず明記し、郵送又は宅配等により送付してください。直接持参いただいても結構です。

問い合わせ：FAX 029-861-3533

E-mail : igg-saiyo23@m.aist.go.jp

詳細は以下をご覧ください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/index.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 26 日送信しました)

【東海大学理学部化学科】

公募職種：特定研究員(PD)

勤務地：神奈川県平塚市北金目 4-1-1 東海大学理学部化学科 17 号館

着任日：平成 23 年 4 月 1 日以降

契約期間：単年契約，更新可能，最長で平成 28 年 3 月末まで

研究内容：火口湖に関連する分野

採用人数：1 名

待遇：月給 35 万円(交通費を含む)

資格条件：

1. 着任時に博士の学位を有すること
2. 各種化学分析器の運用管理を行うこと
3. カメルーンに出張し野外調査に参加できること
4. 研究プロジェクトの全般的な支援業務に携わること

研究プロジェクトの説明：科学技術振興機構（JST）と国際協力機構（JICA）が共同で実施している地球規模課題対応

国際科学技術協力事業の平成22年度採択課題「カメルーン火口湖ガス災害防止の総合対策と人材育成」では日本とカメルーンの研究者が共同研究を行い、ニオス・マヌーン湖におけるCO₂ガス災害の防止を目指します。またカメルーンから留学生を受け入れ日本で教育を施し、将来カメルーンにおける研究を担う人材を育成します。共同研究の内容は多岐にわたりますが、東海大学では主に地球化学的な研究を担当します。そのために、地球化学、分析化学、無機化学の素養を持った方の応募を歓迎します。過去における火口湖研究業績の有無は問いません。

応募書類：

1. 履歴書：氏名、生年月日、住所、連絡先（電話およびe-mailも記載）
学歴 高校入学以降の入学年月日、卒業年月日 職歴 資格 賞罰 学会賞など
2. 業績目録：査読論文、査読なし論文、学会発表など、博士論文（題目、取得大学、時期を記載）
3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各A4、1枚程度）
4. 主要論文3編以内

応募方法：

応募書類を以下の住所に、3月11日（金）までに送付してください。応募書類の返還をご希望の方は、切手を張った返信用の封筒を同封してください。書類選考後に面接日をご連絡します。

問い合わせ先：

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
東海大学理学部化学科 大場 武
電話 0463-58-1211

e-mail：（大場 武アドレス）takeshi_ohba@tokai-u.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月7日送信しました）

【九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター】

募集人員：1名

研究分野：地震および火山の観測研究。

九州の地震火山テクトニクスに興味を持ち、当センターの研究者と協力して、観測と研究に積極的に取り組める方。

なお、応募にあたっては、当センターの教員と事前に連絡を取り、研究計画について相談することが望ましい。

応募資格：着任の時点で、博士の学位を有すること

勤務地：地震火山観測研究センター（長崎県島原市）

着任時期：平成23年4月1日以降の出来る限り早い時期

採用予定期間：原則として平成25年3月31日まで（2年間）

待遇等：(1) 身分：研究機関研究員

(2) 給与：九州大学の給与規程による

応募書類：1. 履歴書（氏名、生年月日、住所、連絡先、高校入学以降の学歴、学位、職歴、資格、賞罰など）

2. 業績リスト（論文は査読の有無で分類、学会発表など）

3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各A4、1枚程度）

4. 主要論文3編以内（コピーも可）

応募締切：平成23年2月28日（月）必着

応募書類送付先（問合せ先も同じ）：

〒855-0843 長崎県島原市新山2丁目5643-29

九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター

清水 洋

（電話：0957-62-6621/e-mail：hshimizu@kyudai.jp）

なお、「平成23年度非常勤研究員経費については現在学内で検討中であり、平成23年度の予算が当センターに配分されない場合もある。」ことを付記させていただきます。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月16日送信しました）

○第7回 JKASP（北太平洋地震火山ワークショップ）のお知らせ

日本火山学会会員の皆さま

第7回 JKASP（北太平洋地震火山ワークショップ）のお知らせ

2011年8月下旬にロシア・カムチャッカ半島のペトロパブロフスク・カムチャッキーで第7回の JKASP（北太平洋地震火山ワークショップ）が開催されます。

このワークショップの正式名称は、

Biennial Workshop on Japan-Kamchatka-Alaska Subduction Processes : Mitigating Risk through International Volcano, Earthquake, and Tsunami Science

といい、北部太平洋の沈み込み帯における、地震・火山・津波研究とそれらの防災に関する研究集会で、2年ごとに日本・カムチャッカ・アラスカが持ち回りで開催しています。

2011年8月25-30日に開催される本ワークショップの概要と2nd-circularが以下の場所にあります。カムチャッカの火山を巡る巡検も2日間予定されています。

http://www.kscnet.ru/ivs/slsecret/jkasp_2011/index_eng.htm

http://www.kscnet.ru/ivs/slsecret/jkasp_2011/JKASP_second%20circular.pdf

参加申込締切：5月1日

アブストラクト締切：6月1日

皆様の積極的な参加をお願いいたします。

日本サイドの問い合わせ先

北海道大学 高橋浩晃氏

(hiroaki@mail.sci.hokudai.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月26日送信しました)

○東北大 GCOE 分析スクール

東北大学グローバル COE プログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」では、異分野融合による新しい研究の創造を促進し、かつ各分野の先端的研究も推進することを目的として、「GCOE 特別スクール」を設置しています。その一環として、本年度も以下の要領で「GCOE 特別演習・地球惑星物質分析スクール」を開講します。このスクールは、大学院生が、複数の分野にまたがる基礎的・実践的な実験を経験することにより、オリジナル技術の開発能力・様々な状況に柔軟に対応できる現場力、および研究の展望を開くリーダーシップ能力を涵養することを目指すものです。

本スクールでは、東北大学の COE 院生の他に、全国の大学院修士・博士課程学生の参加を募集します。

ご希望の方には後期博士課程学生のみ、申込み順に若干名、旅費の支給ができます(本年度は昨年までとは異なり前期(修士)課程学生には援助ができない点、ご了解ください)。また実習の性質上、各実習課題ごとに数名程度の定員がありますので、申込み人数によっては全てのご希望に添えない場合があります。

実習の内容や日程は下記ホームページ

http://www.gcoe.es.tohoku.ac.jp/seminar/analysis_2010.htm

をご覧ください。

東北大学 GCOE 以外の大学院生で参加をご希望の方は、以下の内容を記入の上、電子メールにて2月6日までにお申込みください。

申し込みおよび問い合わせ先：

東北大学大学院理学研究科地学専攻 中村美千彦

nakamm@m.tohoku.ac.jp

<http://www.gcoe.es.tohoku.ac.jp/>

氏名・フリガナ：

所属・学年：

指導教員または研究室名：

受講希望課題(別表の A~D から選択、複数可)：

旅費支給希望の有無(後期博士課程のみ)：

希望する 希望しない

連絡先：(電子メール)

(携帯電話番号)

その他通信欄：(実施日を調整する必要がありますので、参加可能日を記入してください。)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月31日送信しました)

○地殻流体国際シンポジウム 開催のお知らせ

新学術領域『地殻流体』では国内外から講演者を招いて3日間の国際シンポジウムを3月17日~19日の日程で開催いたします。本会議では『地殻流体』のメインテーマである沈み込み帯における流体の起源・分布・組成・役割などに焦点を当て、地震波・電磁気観測か高圧実験、数値モデル、地質学、地球化学ほか様々なアプローチで地殻流体の実態を多角的に議論いたします。年度末のお忙しい時期ではありますが、是非とも本国際シンポジウムにご参加下さい。ポスターセッションでの研究成果発表を広く募集いたしますので、どうぞよろしくをお願いいたします。学生の皆様の発表も歓迎いたします。

詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。なお、参加をご希望される方は大変お手数ですがウェブサイトでの参加登録をお願いいたします(Registration をクリックして下さい)。なお、登録のメ切を2月21日に延長しました。

地殻流体国際シンポジウム

Geofluid Processes in Subduction Zones and Mantle Dynamics

ウェブサイト

http://www.geofluids.titech.ac.jp/eng/event_tokyotech_201103.html

日時：2011年3月17日(木)~19日(土)

場所：東京工業大学 大岡山キャンパス

デジタル多目的ホール(口頭発表)

蔵前会館(ポスター発表および懇親会)

参加費：無料

懇親会：3月17日(一般6000円、学生3000円)

発表形式：口頭発表はすべて招待講演です。ポスターセッションを2日間にわたり開催しますので、皆

様の研究成果発表をお待ちしています。

講演要旨：ウェブサイトより所定のフォーマットをダウンロード

geofluid@geo.titech.ac.jp まで送って下さい。

〆切は2月28日です。

問い合わせ：地殻流体事務局

横山哲也 tetsuya.yoko@geo.titech.ac.jp

川島てるみ geofluid@geo.titech.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月7日送信しました)

○J-DESC 岩石コア記載技術コースのお知らせ

J-DESC (日本地球掘削科学コンソーシアム) コアスクール：岩石コア記載技術コースのお知らせ

表記についてご案内申し上げます。詳細については、末尾のHPをご覧ください。

J-DESC コアスクール：岩石コア記載技術コースは、産業技術総合研究所地質調査総合センターのコアライブラリーに保管されている各種岩石コアを使いその記載手法を実践的に解説する実習型スクールです。

本コースは、特に大学カリキュラムでは体系的に学ぶ機会のほとんどない火山岩・深成岩・変成岩などの岩石コアの岩相記載の方法や構造解析に関する記載の方法などについて、レクチャーと実習を通じて理解し実体験することを目的としています。

開催概要

■実施目的：

今年度は火山岩コアに焦点を絞り、火山岩の産状に関する一般論、火山岩の岩相記載法、岩相解析による山体形成・噴火機構の解析法など火山岩コアを現場で扱う上で必須となる技術の習得を目的としています。実習には全国の火山観測を目的に掘削されたコアを用い、講師陣は実際にコアを記載した産総研研究者が務めます。本スクールの実施は、地球掘削科学を支える若手研究者および技術者の育成・底辺の拡大、IODP・ICDPの普及・啓蒙に大いに寄与することとなると期待されます。

■実施日程：2011年3月22日(火)～3月24日(木)

■実施場所

産業技術総合研究所第7事業所

(〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央第7)

■世話人

山元孝広 (産業技術総合研究所地質情報研究部門)

■講師 (予定)

山元孝広 産業技術総合研究所地質情報研究部門

伊藤順一 産業技術総合研究所地質情報研究部門

ほか数名

■レクチャー内容

火山岩の産状に関する一般論

火山岩の岩相記載法

岩相解析による山体形成・噴火機構の解析法など

■実習内容

火山岩コア試料の岩相記載

■応募方法

下記 HP 参照

■募集人数

15名 (先着順)

■申込〆切

2011年2月25日(金)

先着順となりますので、応募者多数の場合は早期に締め切る場合があります。

■学生参加の補助

J-DESC 会員機関所属の学生を対象に、J-DESC から旅費の補助があります。

詳細は下記 HP をご覧ください。

<http://www.j-desc.org/modules/tinyd0/rewrite/cor-school/ganseki.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月7日送信しました)

○2011年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

1. 三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者

表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金30万円、毎年1件(1名)

2. 奨励賞

対象：1971年4月2日以降に生まれた方で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

表彰内容：賞状および賞金10万円、毎年1～2件(1～2名)

3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文10編程度(三宅賞)、2編程度(奨励賞)を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。

応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ用いられます。

4. 締切日：2011年8月31日(必着)

5. 地球化学研究協会ホームページ：

<http://www.soc.nii.ac.jp/gr/>

6. 応募先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ

(公益信託)地球化学研究基金 榑崎則久

7. 問 合 せ : 電子メールで下記アドレスへお願いします。

E-mail : eitaro1939@yahoo.co.jp

または : t-sagi@m3.gyao.ne.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月8日送信しました)

○IUGG 2011 講演申し込み〆切 (2/1)

来年6月28日から7月7日始めにオーストラリア・メルボルン市開催される IUGG 2011 の講演申し込みの〆切が迫っています。

〆切は当初1月17日に設定されていましたが2月1日に変更になりました。

注意:一部は1月17日のままです。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.iugg2011.com/>

ここでは IUGG の 8association のひとつである IAVCEI の総会も開催されます。

火山関係のセッションは後半になります。

IAVCEI は独自のボランティア的な会員制度を取っていますが、会員・非会員の区別なくどのセッション・総会に参加できます。

会議の前後には、北はフィリピンから南はニュージーランドまで数多くの火山および地震の巡検も準備されています。

多くの火山学会員がこの会議に参加されて日頃の研究成果を発表され積極的な意見交換をされることを期待します。

また若手の研究者には渡航補助の仕組みが IUGG でも火山学会でもあります。

それぞれのホームページをご覧ください。

なお参加登録の際には

Which association's program are you most likely to attend? の質問には IAVCEI をマークして下さいようお願いします。

日本国が IUGG に納めている分担金が、先4年間、このマークの割合によってそれぞれの Association に分配される仕組みになっています。

日本火山学会・IAVCEI 会長 中田節也

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月11日送信しました)

○IUGG 2011 講演申し込み〆切の延長

IUGG 2011 メルボルン大会 (2011年6月28日~7月

7日)の講演申し込みが1週間延長されました。

新しい〆切は2月7日(11:59p.m. GMT)です。

投稿を躊躇されていた方、新燃岳噴火関係の方も是非この機会に投稿ください。

<http://www.iugg2011.com/program-abstracts.asp>

IAVCEI 会長 中田節也

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)

○IUGG 総会参加補助〆切延長 (17日)

会員の皆様

IUGG 総会 (IAVCEI 総会) が本年6月28日~7月7日にオーストラリア・メルボルン市で開催されます。日本火山学会では IAVCEI 2013 学術総会 (鹿児島大会) において積極的な貢献を希望する若手研究者を本会議に派遣する補助事業を行っています。IUGG 総会の講演申し込みの〆切が延びましたので、補助申し込みの〆切を1月17日(月)に変更します。

対象者:40才(6月28日時点)以下の火山学会員

補助金:一人上限20万円まで(合計10名まで)

応募方法:投稿する演題、発表者、要旨および IAVCEI 2013 で貢献予定の内容(研究以外を含む)等を記述した申請書(様式1)と渡航費見積を提出

〆切:1月17日(月)学会事務所宛

その他の詳細や様式については HP をご覧ください。

<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月5日送信しました)

○「火山」桜島火山特集号 募集〆切延長 (2011年6月末日)

昨年アナウンスいたしました「火山」の桜島火山特集号に関して、原稿の締め切りを本年6月末に延長いたします。当初の締め切りは昨年末でしたが、予定数を大幅に下回る原稿数であったため延長やむなしと判断いたしました。

この特集号は、2013年鹿児島で開催される IAVCEI において、桜島火山に関する本国の研究成果を広く世界に知らしめるために立案されました。

投稿予定されていた方で旧締め切りに間に合わず諦めた方を含め、多くの方にこの絶好の機会を逃さずぜひ投稿して頂くようお願い申し上げます。

「火山」編集委員会

特集号編集委員

桜島火山に関する火山特集号への論説・総説を、下記の通り募集します。

是非、ご投稿下さい。

1. 特集号タイトル Volcanic Process of Sakurajima
2. 言語 英語
3. 出版の形式 別冊 (予定)
4. 特集号編集委員 井口正人 (京都大学), 小林哲夫 (鹿児島大学), 西村太志 (東北大), 伴 雅雄 (山形大)
5. 投稿締め切り予定日 平成 23 年 6 月末日
6. 特集号発行予定日 平成 24 年 7 月
7. 投稿先 火山学会事務局 (桜島特集号と明記のこと)
8. そのほか 「火山」投稿規定に従う。

発行の目的

桜島火山は 1955 年に南岳の噴火活動が始まり、現在まで 7900 回におよぶ爆発的噴火活動が繰り返されている。

一方、2006 年に 58 年ぶりに再開した昭和火口の噴火は徐々に噴火活動の激しさを増しているのが現状である。南岳の爆発期においては京都大学防災研究所桜島火山観測所を中心に地球物理学的観測研究によりマグマ供給系や火山爆発機構について研究がなされ、全国の研究者が参画した火山噴火予知計画に基づく集中総合観測は 10 回を数え、火山活動の評価がなされてきた。共同利用研究所としての防災研究所の共同利用にも多くの研究者が参加し、化学、岩石、地質、モデル化を含めて真に学際的調査研究がなされるようになってきた。昨年度から始まった地震及び火山噴火予知のための観測研究計画では、桜島を火山噴火準備過程にある火山としての代表的テストフィールドと位置付け、多項目の観測がなされている。

本特集号は、桜島火山の活動に関する最近の科学的研究成果をまとめるものである。歴史時代から現在までの桜島火山の活動を振り返るとともに、現在の桜島火山の活動についての多方面の学際的研究をもとに、火山深部から極浅部までのマグマ活動を考察する。

意義

2013 年には IAVCEI 総会が鹿児島市で開催される予定である。鹿児島市にあり、日本の代表的な活火山である桜島についての研究成果を取りまとめたものは、世界に向けて日本の火山学を知ってもらふ重要な位置付けになる。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 19 日送信しました)

○地球惑星科学連合 2011 年大会講演申込開始

日本火山学会会員のみなさま
日本火山学会 大会委員会

日本地球惑星科学連合 2011 年大会が 5 月 22 (日) ~ 27 日 (金) に開催されます。1 月 11 日より予稿原稿投稿募集が開始となっています。

締切は

01/31 17:00 予稿原稿投稿募集早期締切

02/04 12:00 予稿原稿投稿募集締切

です。

以下に、日本火山学会が提案母体となっているセッションの一覧を添付します。皆さまの積極的な発表を期待します。

○固体地球科学セッション

●セッションタイトル：火山噴火のダイナミクスと素過程 (S-VC47)

代表コンビーナ：鈴木雄治郎

共同コンビーナ：奥村 聡・小園誠史

提案母体：日本火山学会

スコープ：火山・火成活動現象とそれらを支配する微視的な現象を統一的に理解するための試みについて議論する。噴火の準備過程、マグマ上昇プロセス、噴出物挙動などのダイナミクスと素過程の基礎研究や、現象の階層を横断して理解するための手法開発についても議論したい。また、研究手法は問わず、火山・火成活動現象の理解へのきっかけとなるような分野横断型研究の発表も歓迎する。

●セッションタイトル：火山・火成活動とその長期予測 (S-VC48)

代表コンビーナ：及川輝樹

共同コンビーナ：三浦大助・石塚吉浩・下司信夫

提案母体：日本地質学会、日本火山学会

スコープ：マグマ発生から移動・蓄積、マントルや地殻との相互作用、脱ガス、噴火様式、火山活動の長期予測、噴出物の運搬・定置過程など、マグマの挙動の各過程に関する話題を議論する。また、噴火の確率論的な研究、短・長期的な火山・火成活動史、火山とテクトニクス、マグマの物性や各種技術の開発に関する話題も対象とする。

●セッションタイトル：火山の熱水系 (S-VC49)

代表コンビーナ：藤光 康宏

共同コンビーナ：鍵山恒臣・篠原宏志・江原幸雄

提案母体：日本地熱学会・日本火山学会・日本地球化学会

スコープ：マグマと地表との間には、異なる地学環境の中で、多様な熱水系が生じている。熱水系の理解は地球システムの理解に寄与するとともに

に、地熱エネルギー利用或いは火山噴火予知においても欠かすことはできない。本セッションでは火山の熱水系に関して、地球物理・地球化学・地質学・貯留層工学的立場からの地下構造及び熱と流体の流れに関する議論を集中的に行う。理論・観測・実験いずれの立場からの研究も歓迎する。

●セッションタイトル：活動的火山 (S-VC50)

代表コンビーナ：青木陽介

共同コンビーナ：市原美恵

提案母体：日本火山学会

スコープ：活動的火山の噴火や火山活動に伴う諸現象、火山体構造、災害予測 やその軽減などについて各種地球物理・地球化学観測・地質学的調査などに基づき学際的立場で議論する。歴史噴火や各種観測技術の 開発に関する話題も歓迎する。

●セッションタイトル：火山とテクトニクス (S-VC51)

代表コンビーナ：下司信夫

共同コンビーナ：西村卓也・三浦大助・古川竜太

提案母体：日本火山学会

スコープ：さまざまな時間・空間スケールの火山・マグマ活動のメカニズムを、火山体やその基盤をなす地殻内のテクトニクスの観点から幅広く議論する。地球物理学、物質科学、地質学的な観測やモデリング、あるいはそれらを融合した視点・手法で幅広く議論し、火山活動とテクトニクスの相互関係に関する理解を深めることを目標とする。

主な対象は、火山の深部構造、マグマ溜まりや様々な規模の貫入岩体の形成メカニズムやその安定・不安定性、ダイクの成長・定置過程、近接する地震と火山噴火の関連性、カルデラ形成を伴う巨大噴火の準備過程や噴火プロセスなどを予定しているが、そのほか陸上・海底・地球外惑星など幅広い火山とテクトニクスに関する議論も歓迎する。

●セッションタイトル：久野久生誕 100 年：岩石学・火山学のその後の進展 (S-VC52)

代表コンビーナ：藤井敏嗣

共同コンビーナ：久城育夫・萬年一剛・高橋正樹

提案母体：日本火山学会

スコープ：久野 久氏は箱根火山発達史の研究を通じて世界の火山および火山岩の研究に多大な影響を与え、超塩基性捕獲岩の研究を通じてマンテル岩石学の成立に貢献した。また、プレートテクトニクス確立前夜に、日本周辺の火山

岩の研究に基づいて、沈みこみ帯のマグマ生成に関して革新的なモデルを提出し、後の実験岩石学進展のきっかけをつくった。彼はアポロ 11 号により採取された月試料を自ら分析することを切望しながら、1969 年 8 月 6 日に逝去された。彼の生誕 100 年を機に、その後の箱根火山形成史、火山岩岩石学、マンテル岩石学、マグマ成因論、月の成因論の進展をレビューし、これからの展望を議論する。

○地球人間圏科学セッション

●セッションタイトル：人間環境と災害リスク (H-SC24)

代表コンビーナ：青木賢人

共同コンビーナ：小荒井衛、須貝俊彦、宇根 寛、中村 洋一、長坂俊成、松本 淳

提案母体：日本地理学会・地理情報システム学会・日本第四紀学会・日本国際地図学会・日本地質学会・日本火山学会・環境災害対応委員会

スコープ：地表空間に居住し活動する人間がつくり出した多様な環境と、そこに内在する災害リスク及びそれらの相互関係について、主に地理学のアプローチから検討する。人間環境と災害リスクの関連、人間環境の持続性と環境リスクの変容、それらの相互関係と持続可能で安全な人間環境の創出の他、近年頻発する諸災害に関する地理学的調査・分析、災害リスク管理ツールとしてのハザードマップの作成や利活用、などが議論の対象になる。

○ユニオンセッション

●セッションタイトル：地震・火山噴火の科学的予測と防災情報の現状と課題 (U-21)

代表コンビーナ：小泉尚嗣

共同コンビーナ：山岡耕春・藤田英輔

提案母体：日本地震学会地震予知検討委員会、日本火山学会

スコープ：2009 年 4 月 6 日にイタリアのラクイラで発生した地震 (M 6.3, 死者：300 名以上) に関して、イタリア国市民防災局 (DPC) 等の防災当局は、結果として有効な情報を出すことができず、国民の厳しい批判にさらされた。それは、防災当局に助言していた科学者の刑事的責任が問われるという問題にまで発展した。これは、住民の科学的予測に対する要求とその時点における科学の実力との大きなギャップのなかで生まれた出来事であり、地震や火山噴火が多発する日本でも歴史的に繰り返されてきた事である。しかしながら、こ

のギャップを組織的・系統的に埋めようという努力が日本でなされてきたとは言い難い。本セッションでは、上記のギャップを埋めるためには、どのような工夫が必要かということについて議論したい。地震学者や火山学者だけでなく、他の自然災害研究者、あるいは、防災当局・マスコミ等からの発表を期待する。

○パブリックセッション

●セッションタイトル：ジオパーク (O-22)

代表コンビーナ：渡辺真人

共同コンビーナ：目代邦康

提案母体：日本地質学会，日本地理学会，日本第四紀学会，日本火山学会，日本地震学会

スコープ：日本各地のジオパークとその候補地における，地球科学の教育・普及，ガイド養成，地形・地質遺産の保全，ツーリズムによる地域活性化などの活動について情報交換と議論を行う。研究者だけでなく，広くジオパークに関わる関係者の発表を募集する

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月11日送信しました)

○連合大会セッション

火山学会会員の皆さま

火山学会 大会委員会

日本地球惑星科学連合2011年大会が5月22(日)～27日(金)に開催されますが，火山学会が母体となったセッションの一覧を昨日皆さまに流させていただきました。

以下のセッションはある研究グループが提案母体となったセッションですが，固体地球火山学のカテゴリに登録されています。またこのセッションは国際セッションとして登録され発表主要言語は英語となっています。

IASPEIや2013年IAVCEIに向けて，本セッションをはじめ，他のセッションの国際セッション化は必須です。以下のセッションへも皆さまの積極的な発表を期待します。

セッションタイトル：Large Igneous Provinces in the Pacific Realm

(太平洋および周辺のLIPs(巨大火成区))(S-VC07)

代表コンビーナ：佐野貴司

共同コンビーナ：William W. Sager, Joerg Geldmacher, 中西正男

国際セッション(発表主要言語：英語)

スコープ：Large Igneous Provinces (LIPs) represent the

largest known volcanic events on the Earth, yet they are not easily explained by normal plate tectonic processes. In order to test competing mantle plume and plate tectonic models for LIP formation, IODP Expedition 324 drilled Shatsky Rise in the northwest Pacific Ocean in 2009. This session is focused on, but not restricted to, Expedition 324. We welcome all relevant studies on LIPs in the Pacific Ocean and its rim.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月12日送信しました)

○連合大会緊急セッションについて

日本火山学会会員の皆さま

日本火山学会大会委員会

霧島火山新燃岳噴火に関する研究発表について

5月22日から開催される日本地球惑星科学連合2011年大会の予稿集投稿締切が2月4日正午と迫っています。

火山学会大会委員会では，今回の霧島火山新燃岳噴火に関する研究発表の場として，緊急セッションの企画を連合大会事務局と調整しています。緊急セッションへの締切等の詳細については決まり次第，当MLにて連絡申し上げます。

ただし，緊急セッションは原則ポスター発表となっているため，口頭での研究発表を強く希望されるかたは，2月4日正午以前に「S-VC50 活動的火山」のセッションに投稿いただきますよう，よろしくお願いたします。(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月1日送信しました)

○「久野 久生誕100年セッションへのお誘い」

この春の地球惑星科学連合大会で下記セッションが行われますので，奮ってご投稿下さい。本セッションでは久野以降の各分野での進展に関するレビューペーパーも歓迎しますが，それ以外に，久野 久氏に関連した個々の研究分野での最近の研究成果の発表を通じて，久野久氏逝去後の各分野の進展が自ずから浮かび上がることを期待して設定されたセッションですので，関係分野の研究成果の積極的な投稿を御願いたします。

コンビーナー：藤井敏嗣，久城育夫，萬年一剛，高橋正樹
固体地球科学セッション S-VC52

久野 久生誕100年：岩石学・火山学のその後の進展
提案母体：日本火山学会

久野 久氏は箱根火山発達史の研究を通じて世界の火

山および火山岩の研究に多大な影響を与え、超塩基性捕獲岩の研究を通じてマントル岩石学の成立に貢献した。

また、プレートテクトニクス確立前夜に、日本周辺の火山岩の研究に基づいて、沈みこみ帯のマグマ生成に関して革新的なモデルを提出し、後の実験岩石学進展のきっかけをつくった。彼はアポロ 11 号により採取された月試料を自ら分析することを切望しながら、1969 年 8 月 6 日に逝去された。彼の生誕 100 年を機に、その後の箱根火山形成史、火山岩岩石学、マントル岩石学、マグマ成因論、月の成因論の進展をレビューし、これからの展望を議論する。

予稿集投稿

早期締切：2011 年 1 月 31 日（月）17：00

最終締切：2011 年 2 月 4 日（金）正午 12：00

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 25 日送信しました）

○平成 23 年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募

特定非営利活動法人日本火山学会
会長 中田節也

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成 23 年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞（Young Scientist Award）：火山学に関する優れた論文を発表し、将来、火山学の発展への貢献が期待される本会会員で、平成 23 年 4 月 1 日で 35 歳以下の者。（今回の公募対象）
2. 日本火山学会賞（Volcanological Society Award）：日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体。非会員でも対象になります。（今回の公募対象）
3. 日本火山学会論文賞（Best Paper Award）：雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中、火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成 23 年度の対象論文は前 3 年（2008-2010 年）に出版されたものとします。（公募はしません）

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記 3 賞受賞候補者の選考を行い、理事会において決定します。
- ・本年 5 月に開催される総会（日本地球惑星科学連合 2011 年大会）において承認された後、賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。また、日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には、それぞれ、受賞対象となった研究課題に関連する論文（レビュー論文）の「火山」への投稿をお願いします。

推薦の締め切り

平成 23 年 3 月 17 日（木）必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち、1 を電子メールの添付ファイル（MSWord かテキストファイル）として火山学会事務所へ送信下さい。また、2 がある場合は郵送あるいは pdf ファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は、必ず subject に「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は、封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類（様式は自由であるが、必ず以下の項目を含むこと）
 - (1) 推薦対象の賞名（学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述）
 - (2) 被推薦者氏名、生年月日、所属、連絡先、電子メールアドレス。団体の場合は、団体名、連絡先、代表者名とその連絡先などを記述のこと。
 - (3) 被推薦者の学歴、職歴、研究歴。団体の場合は活動歴。
 - (4) 推薦者氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス、被推薦者との関係。自薦の場合は、本人の研究活動を熟知する照会者の氏名、所属、連絡先、電子メールアドレス（推薦者や照会者は複数であっても構わない）。
 - (5) 受賞対象となる研究課題名（40 字以内）
 - (6) 推薦理由
 - ・ 1000 字以内で簡潔に推薦の理由、特に、被推薦者（あるいは団体）の研究活動の火山学における重要性（もしくは評価されるべき点）をできるだけ具体的に記述のこと。
 - ・ 研究奨励賞においては、対象となる論文（複数可）も明記すること。
 - ・ 学会賞においては、被推薦者（あるいは団体）の活動に関して、日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。
 - (7) 主要な業績のリスト

- ・最近のものから通し番号を付して記述する.
- ・主な業績については、それぞれ、その内容と火山学的位置づけを250字以内で解説すること.

(8) 本人の承諾書

- ・他薦の場合は、被推薦者本人（あるいは被推薦団体代表者）が電子メールで事務局に直接送信のこと. 自薦の場合は不要.
- ・研究奨励賞においては、本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解（500字以内）を必ず記述すること.

2. 参考資料

- ・選考のために参考となる客観的資料があれば1部ずつ添えること.
- ・一般雑誌の論文別刷りは不要.
- ・提出書類は要求がない限り返却しない.

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9
モンテベルデ第2東大前 406号 日本火山学会事務局
電話/FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan@khaki.plala.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 篠原宏志（産業技術総合研究所）

Tel : 029-861-3912, Fax : 029-861-3526

e-mail : shinohara-h@aist.go.jp

選考委員（各賞選考委員会）

熊谷博之，小屋口剛博，篠原宏志，高橋正樹，津久井雅志，西村太志，橋本武志，安田 敦

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました）